

“NEAR TOKYO”

富士山、ふもと暮らし

富士宮市

静岡県



ちょうどいいら、富士宮



富士宮は日本一の厚み！

なんといっても富士宮は富士山のまち。富士山の標高3776mに対して、市内の高低差が3741mで日本一ですので、北と南では気候も文化もずいぶん違います。「何でもアリ！」な包容力が富士宮市の魅力です。



蛇口を捻ればうまい水！

富士宮市の水道水は、富士山の湧き水を原水にしているから、水道水としては常識外れの美味しさです。普段の飲み水はもちろんのこと、市内でつくられる農産物や工業製品も、この豊富な水資源に支えられています。



年じゅう「うみやー」

富士宮といえば焼きそばが有名ですが、実は農業や酪農、養蠶なども盛んな土地柄です。新春の酒蔵蔵開きを幕開けに、苺・タケノコ・新茶・ソフトクリーム・ゆで落花生・四ツ溝柿…と季節のお楽しみがずーっと続きます。



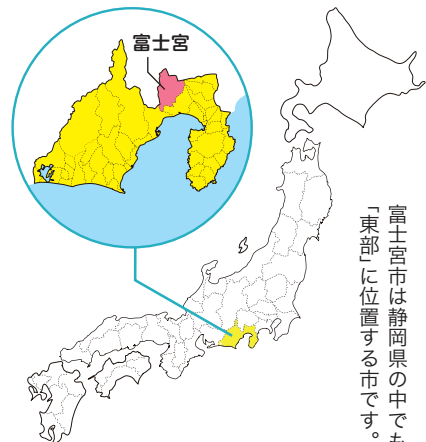
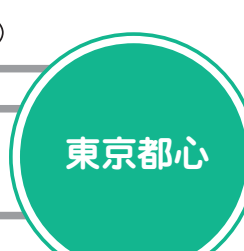
パワースポットも日本一

富士宮市は実はパワースポットの宝庫！富士山をはじめ、本宮浅間大社や山宮浅間大社、白糸ノ滝など有名なスポットが多く点在しています。富士宮市民は穏やかで優しい人が多いと言われる理由は、実はここにあるのかも！



都市へのアクセスがちょうどいい /
富士宮なら、東へ西へ

富士宮市は関東方面、関西方面のほぼ中間地点。どちらにもアクセスし易い便利な環境です！



富士宮市は静岡県の中でも東部に位置する市です。

豆知識

地元民の常識 日常“宮”会話

1. 美味しさに感動した時は…「うみやー！」

使用例 夏のビールはうみやーなあ。 意味 夏のビールは美味しいなあ。
応用編 おみやーは話がうみやーなあ。 意味 お前は話がうまいなあ。

富士宮にも地方ならではの方言がたくさん存在します！ここでは、特に街中でも耳にする、よく使われている代表的な方言をご紹介します！

2. 同意を求めるときは…「ら？」「…だら？」

使用例 週末、サッカー行くら？ 意味 週末、サッカー行くでしょ？
使用例 そうだら？……ら？ 意味 そうでしょ？……ねえ？

3. ゴリ押しするときは…「××だよ！」

使用例 あんたホレ、宿題するだよ！ 意味 あんたはホラ、宿題しなさい！



データで見る 富士宮市

平均通勤・通学時間

●富士宮市 (静岡県) 平均28分

東京都 平均47分

プライベートタイムも増えるかも

出典：「平成23年社会生活基本調査結果」（総務省統計局）



1住宅あたりの延べ面積

●富士宮市 116.53㎡

東京都 64.48㎡

子供部屋や書斎も持てちゃう！

出典：「平成25年住宅・土地統計調査結果」（総務省統計局）



富士宮市民の通勤・通学時間の平均はおよそ28分（片道）。一方、東京都は47分とおおよそ20分の差。通勤ラッシュも少ないおかげか、市民の多くが、時間にも余裕のある通勤・通学をしています。

人口あたりの土地面積が多いこともあり、1住宅あたりの延べ面積は東京都の実に倍近くの差がありました。地価も手頃な地域が多いため、理想の住宅環境を手に入れやすい環境でもあります。

富士宮市 × 東京都 数値比較

物価指数 東京都を100%換算とする

●富士宮市 (静岡県) 93.2%

東京都 100%

生活費が安いから断然お得！

出典：「平成26年小売物価統計調査（構造編）結果」（総務省統計局）



1ヶ月の家賃の平均額

●富士宮市 52,888円

東京都 78,541円

年平均307,836円も安いんだ！

出典：「平成25年住宅・土地統計調査結果」（総務省統計局）

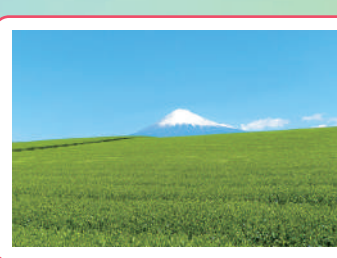


若干ではありますが、物価指数は都内より低め。日頃の些細な差も長期に渡っての生活では大きな差となります。富士宮は、都内よりも出費を節約できる環境にあるといえます。

地方ということもあり、1ヶ月の家賃平均額は都内よりずっと安い。平均収入では若干都内のほうが上という結果だが、家賃を含めた必要支出を考慮すると、年間収支はほぼ変わらない結果に。

富士宮の四季はカラフルな楽しみがいっぱい！ 年間情報

春



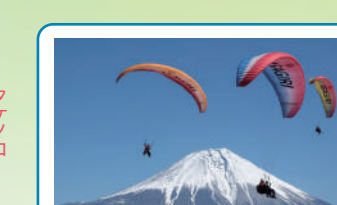
「富士宮の新茶」

新茶シーズン到来！新芽の青々とした茶畑が市内のそこかしこに広がり、5月の風がかけめぐる頃には富士山との絶景コラボレーションが楽しめる。



ダイヤモンド富士

富士山頂から日が昇る！チャンスは4月と8月の年2回



「パラグライダー」

朝霧高原エリアで盛んなパラグライダーは、初心者から上級者まで、一年中楽しむことができる。富士宮市民になったあかつきにはLet's チャレンジ！

夏



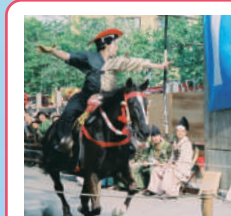
朝霧キャンプ場

朝霧方面にはキャンプ場がたくさん。夏はやっぱりキャンプでしょ！



富士登山

富士宮といえば富士登山！富士宮口5合目は初心者にもおすすめの人気の登山口！



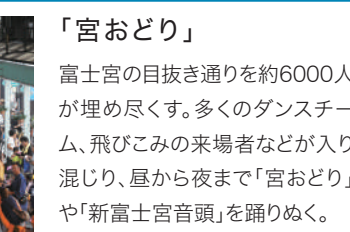
「流鏝馬（やぶさめ）祭り」

1193年に源頼朝が富士山本宮浅間大社に流鏝馬（やぶさめ）を奉納したことが起源とされる。馬上の射手が次々に的を射抜く姿には、圧巻のひと言。



いちご狩り

富士宮には美味しいいちご農家がたくさん！1月頃からG.W頃まで楽しめます！



「酒蔵開き」

1月から3月にかけて、市内4つの酒蔵が次々と蔵開きをする。富士の伏流水を使った地酒は、味よし、舌触りよしで全国的にも大変人気の逸品。



たこたこあがれ

全長25mの長い凧や15畳ほどの大きな凧が空を舞う。自作凧のコンテストも同時開催！



朝霧JAM

富士山麓を人・人・人が埋め尽くす。歌って踊って泊まれる音楽フェス！！



「富士宮まつり」

山車・屋台の引き回し。お囃子の激しい競り合いが迫力満点！見応えのある、富士宮市を代表するお祭りのひとつ。



四ツ溝柿

干し柿にすると絶品の四ツ溝柿。軒下の干し柿に晩秋を感じます。



移住に関しての総合窓口

富士宮市役所 企画部 企画戦略課

Tel.0544-22-1215

Fax.0544-22-1206

kikaku@city.fujinomiya.lg.jp

今なら県外から富士宮市への移住・定住の場合

最大160万円の助成金

詳しくはお問い合わせください

移住・定住ポータルサイト

富士宮市の詳しい情報は [こちら](#)

富士宮市移住＆定住ポータルサイト
fujinomiya life

子育て情報・不動産情報・お仕事情報
随時更新、掲載中！！



魅力が分かる！

富士宮ライフ

検索

<http://www.fujinomiya-life.com>



facebookも随時更新中！

写真が動き出す！AR技術で富士宮市の魅力を体感！



アプリケーションをインストールして、アプリケーション起動後、スマートフォンorタブレット端末を左の写真にかざすと、写真が動き出します。右のQRコードからアプリケーションをインストールしてご利用ください。



Android用 iOS用

富士宮広域マップ

FUJINOMIYA CITY MAP



迷っているより、
やっちゃった方が早い。
体で感じることもあるから。

移住者のこえ
田村さん一家

田村栄次さん・真弓さん・航平くん

田村さんのご家族は、平成28年7月に千葉県東の八千代市から、富士宮市猪之頭地区に引っ越ししてきた。移住と同時に、農家を始めた。以前は東京駅前の文具店でサラリーマンとして働いていたという栄次さんは、朝8時の文具店の開店に合わせて、家を出るのは毎日6時半ごろ。夜7時の閉店を待って片づけなどをし、帰宅するのは夜の8時9時という生活だった。長く勤めた会社だったが、お店の経営が傾いたことで転職を余儀なくされた。40歳を過ぎての転職。「何をやるか…」と迷いながらの転職活動が始まった。幸いにしてスーパーや小売店から誘いがかかったが、どうにも釈然としない思いが残った。若いころ運動で鍛えたおかげで、まだまだ体力には自信がある。「自分で、何かをしたい」という思いが募り、気持ちは農業に向かった。妻の反応がわからない。半分怖いような気持ちで真弓さんに相談すると、「いいじゃない」とあっけなく賛成された。農学部出身の真弓さんは、大学で食品流通を学んでいた。独身時代はアパレルの仕事をしてきたこともあって、経営などの予備知識もある。たちまち心強い味方になった。

活気について研修先を探し、さっそく就業準備に取りかかった。研修先でひと通り技術を体得すると、就農先を求めて移住情報を集め始めた。有楽町のふるさと帰省支援センターへ行き、移住先の目星をつけると、神奈川、石川、静岡と、土地を見て歩いた。富士宮への移住の決め手になったのは、担当者が親身になってくれたこと。市役所と地元の有志が連携して、畑や家などを見つけてくれた。意外にもトントン拍子に話しが進んで、就農は実現した。「迷っているよりやっちゃった方が早い。考えてもわからないことが、現地に行けば見えてきます」という真弓さんの言葉には実感がこもる。



田村さんが取り組んでいる自然農法では、いわゆる「肥料」は撒かず、チップ(砕いた木材)や竹、刈り草などを肥料がわりに畑に投入。これらが分解して肥料のような働きをするのだ。



移住者のこえ
岩井さん一家

岩井良之さん・京子さん・夕芽ちゃん・祥恭くん

平成27年7月に、富士宮市稲子地区に移住してきた岩井さんは、もともと東京都板橋区でパン屋を営んでいた。東京も悪くはなかったが、「いずれは自然の豊かな田舎でパン屋をやりたい」という気持ちはずっとあった。東京郊外から始めて、埼玉、神奈川、山梨、静岡と少しずつ範囲を広げながら、場所を探した。富士宮に来たのは、移住計画を知った知人が紹介してくれたことがきっかけ。市役所から紹介を受けた空き家を見学に来たら想像以上に山の中だったので、「ここはナシかな…」と思っていた矢先、到着した家を見て気持ちが一変した。古民家風の平屋が気に入った。緑いっぱい環境や、水がきれいなのも魅力だ。パン作りのためにも、水がきれいなのが良い。そう考えて移住を決めた。移住と同時に自宅でパン屋を開くつもりだったが、住み始めると、手直ししなければならないところがあちこちに見つかり、パン屋の開店はひとまず断念することに。急ぎ市街地の農産物直売所に間借りして、週2日、そちらでパンを焼く。

現在では、家の改修もあらかた済んで、パン屋の開店準備を進めている。改修費用は予定外の出費で痛手だったが、それでも越えてきて良かった。家の前の木をスルスルと登っていく子どもたちを見ながら、「東京では『登ったら木がかわいそう』という発想なので、子どもたちは木登りなんてやったことがなかったんです」と、京子さんは話す。「でも、ここでは自由に遊べます。また、学校の生徒数が少ないので、授業で作った作品に賞をもらったり、ソフトボールの学校代表に選ばれたりします。学校代表といっても、みんな代表なんです。ほとんど選ばれちゃうから、苦手なことで挑戦せざるを得なくて、最近は積極的になってきた気がします」と笑う。

